

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況（腸管病原菌含）

検出菌 ウイルス	2021年												2022年												2023年			
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月 ~5日	2月 ~12日	2月 ~19日
カンピロバクター	114	65	137	114	169	115	122	85	45	63	84	78	76	34	43	69	64	99	99	47	48	99	77	32	48	7	7	7
病原性大腸菌	39	25	52	61	55	64	63	45	42	102	62	44	29	41	37	62	88	90	30	53	40	44	45	81	47	15	6 (7)	7
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	2	3	2	0	3	2	0	0	0	0	0	1	1	10	2	0	2	0	0	1	1	0	0
サルモネラ	6	5	3	1	5	8	10	23	9	25	7	4	4	3	7	5	5	3	16	12	12	14	5	3	7	0	0	0
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	16	33	19	39	25	17	15	20	26	21	12	35	12	25	20	32	22	26	19	13	20	18	11	15	3	3	1
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	10	15	25	31	13	14	19	10	18	8	18	19	10	9	19	28	9	17	18	15	16	20	14	13	1	2	6
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	4	4	0	4	5	3	3	3	3	0	0	0	1	3	4	1	5	4	1	2	1	0	0	1
ロタウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	5	7	3	2	2	6	0	0	0	0
ノロウイルス	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	2	4	0	7	2	0	0	1	0	0	0	1	2	14	3	4	1

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

* その他の1件は、アエロモナスでした。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター（ひろしまCDC） 感染症週報

令和5年第7週（2月13日～2月19日）

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	7	結核	7			4	1		1	1
三類	0	発生なし	0							
四類	3	レジオネラ症	3			1		1	1	
五類	8	水痘(入院例)	1	1						
		梅毒	7					4	1	2
新型インフルエンザ 等感染症	4,052	新型コロナウイルス感染症	4,052	449	464	591	89	1,374	327	758

注）西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

週報③

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター 広島市感染症週報

令和5年第7週(2月13日～2月19日)

■コメント

1 新型コロナウイルス感染症

第7週に1,374件の報告がありました。新規感染者数は減少傾向が続いています。感染を再拡大させないため、引き続き感染予防対策を徹底することが大切です。

2 インフルエンザ

定点当たり10.59人と減少傾向ですが、多い状況が続いています。また、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖の報告が第7週に11件ありました。マスク着用、手洗い、換気などの感染予防対策を心がけましょう。

迅速診断キット検査結果(市内2か所の協力医療機関による)
第7週 A型:88人、B型:1人

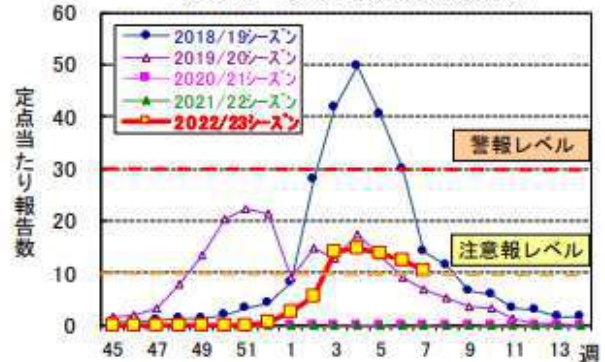
3 感染性胃腸炎

定点当たり7.58人の報告があり、多い状況が続いています。こまめな手洗い、便・吐物の適切な処理など感染予防対策を徹底しましょう。

4 レジオネラ症

今年の累計は5件(昨年同時期4件)となりました。レジオネラ症は、河川や土壌など自然界に生息するレジオネラ属菌による感染症で、レジオネラ属菌に汚染されたエアロゾル(細かい水のしぶき)などを吸入することで感染します。屋外作業中に、舞い上がった土ぼこりを吸い込んで感染することもあるため、必要に応じてマスクを着用しましょう。また、循環式浴槽や加湿器の使用、入浴施設による感染事例の報告もあり、感染を予防するためには、感染源となる可能性のある設備を適切に維持管理することも重要です。

インフルエンザの流行状況(広島市)



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
小児科	インフルエンザ	392	10.59	9.80	◇	小児科	流行性耳下腺炎	-	-	-	◇
	咽頭結膜熱	4	0.17	0.20	◇	小児科	RSウイルス感染症	8	0.33	0.26	◇
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11	0.46	1.47	◇	小児科	急性出血性結膜炎	1	0.13	-	◇
	感染性胃腸炎	182	7.58	5.35	◇	小児科	流行性角結膜炎	-	-	0.28	◇
	水痘	2	0.08	0.13	◇	小児科	細菌性髄膜炎	-	-	0.03	◇
	手足口病	-	-	0.11	◇	小児科	無菌性髄膜炎	-	-	-	◇
	伝染性紅斑	-	-	0.15	◇	小児科	マイコプラズマ肺炎	-	-	0.09	◇
	突発性発しん	2	0.08	0.21	◇	小児科	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	◇
	ヘルパンギーナ	-	-	0.02	◇	小児科	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.11	◇

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
横ばい	→	←	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
4	レジオネラ症	1	5	60歳代
5	梅毒	4	31	20歳代、40歳代、50歳代、60歳代